

北大と連携し女性アスリートを支援

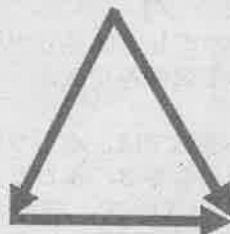
良好なコンディショニングへ

厚別区の新札幌整形外科病院(吉本尚理事長・88床)は、女性アスリート外来を開設している。後藤佳子医師を中心に、北大病院スポーツ医学診療センター、婦人科、管理栄養士と連携し、高い専門性を生かして、特有のスポーツ障害や健康問題等に取り組んでいる。

同病院には、男女問わずアスリートが、けがや各部位の疲労などで受診するケースが多い。特に女性は、摂食障害の有無に関わらず、栄養バランスの偏りや、過度

な運動によるエネルギー不足も相まって、利用可能なエネルギーが不足しがち。さらに無月経と骨粗鬆症が関連し、さまざま健康問題を引き起こすことが、1997年に

利用可能なエネルギー不足



無月経

骨粗鬆症

女性アスリートの3大特徴

よる対応が増えてきた。

一方で、解剖学的に男性よりも骨盤形状が広く、筋力は弱いが、柔軟

性が高いなどの特徴があり、膝蓋大腿関節の障害や、足関節の捻挫、前十字靭帯損傷が目立つなど、整形外科領域も深く関わっている。

昨年度、後藤医師が北大病院スポーツ医学診療センターに女性アスリート外来を先行して立ち上げ、現在も所属している経緯もあり、整形外科領域をメインに婦人科、栄養科と連携した支援を目指すことにした。

平日の午後2時～4時30分に、電話相談窓口を開設。本人だけでなく家族やコーチ、管理者などから、整形外科的な障害や疾患をはじめ、さまざまな悩みや疑問に応じている。

併せて、新札幌整形外科病院で手術などを行い、対応が必要と判断した患者には、治療とともに、術後のリハビリで個々にトレーニングを指導し、パフォーマンスの向上や復帰をサポートする。

スポーツ愛好家を対象に、従来から行っている栄養評価、骨密度測定も同外来が担当。月経周期によるコンディショニング不良などについては、北大病院の婦人科や栄養科と連携し、スポーツを行う上で良好なコンディショニングづくりを多角的に支援していく。



検温サーモグラフィーを計5台設置

検温体制を整備

函館五稜郭

全外来患者対象に

函館市の函館五稜郭病院 田智明院長・480歳。中は、全外来患者を対象とした事前検温を開始した。

き、普段の活動をゲストと共に紹介する内容とな

ospital
&
clinic